

第1回定例研究会

「侘茶の素因」

第1回定例研究会は、京都工芸繊維大学名誉教授の相川浩氏をお招きし、侘茶の素因というテーマで講演いただきました。

【講師プロフィール】

1924年山口県生まれ。京都大学工学部建築学卒業（工学博士）。

専攻は、ルネッサンスの建築論。『A.パラディオの建築論的研究』により建築学会賞受賞。著書に『比較建築論—利休とアルベルティの作意』『日本の名建築をあるく—秀囲気の美学』『建築家アルベルティ—クラシズムの創始者—』など多数。

講師

相川浩氏（京都工芸繊維大学名誉教授）

指定討論者

影山尚之氏（武庫川女子大学日本語日本文学科教授）

管宗次氏（武庫川女子大学日本語日本文学科教授）

コーディネーター

黒田智子（武庫川女子大学生活環境学科教授・生活美学研究所研究員）

テーマ

侘茶の素因

講演日

※申し込み不要

2015年5月30日（土）13:05～16:20 受付開始 12:35

場所

武庫川女子大学 マルチメディア館（MM館）1階 メディアホール

※駐車場がございませんので、公共の交通機関をご利用ください

問い合わせ先

武庫川女子大学生活美学研究所

TEL：0798-67-1291



相川浩氏



当日の様子

NEWS LETTER vol.107

生活美学研究所では、毎年年間統一テーマを定め、そのテーマに沿った研究会を開催しております。H27年度の年間統一テーマは「素(そ)」です。

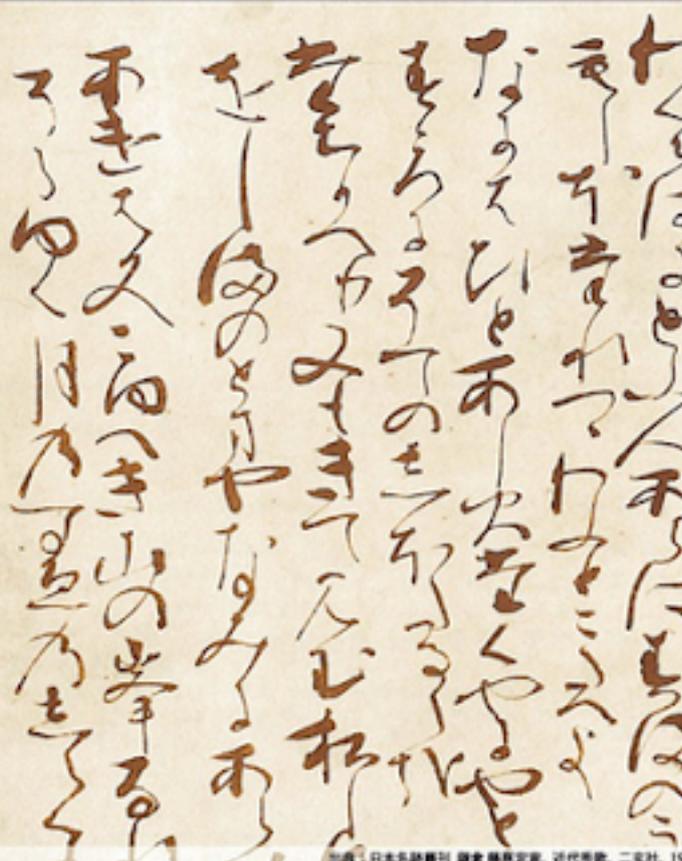
第1回定例研究会 (通算 150回)

2015/5/30 (土) 13:05~16:20



侘茶の素因

五百年前に平利休の師である武野燭圃(たけのじょうおろ)が「侘茶」という表現を使いました。日本文化を見直すためには、「侘」の意味を、今、歴史学的に確かめる時期だと感じます。



加典「日本名跡辭刊 鎌倉 藤原定家、近代用歌、二宮社、197

